

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 平野区

学 校 名 平野南小学校

学校長名 東川 達宏

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・平野南小学校では、第6学年 66名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率では、国語・算数・理科すべてで全国、大阪市の結果を下回っている。国語では、全国とは17.8ポイント、大阪市とは16ポイントの開きが見られる。また、算数では、全国・大阪市とは13ポイントの開きが見られる。さらに、理科では、全国とは18.1ポイント、大阪市とは16ポイントの開きが見られる。

平均無回答率については、国語・算数・理科すべてで全国、大阪市の結果より高くなっている。国語では、全国より2.3ポイント、大阪市より2.8ポイントの開きが見られる。また、算数では、全国とは0.5ポイント、大阪市とは0.8ポイントの開きが見られる。平均無回答率の高さが平均正答率を押し下げてしまっている要因の一つであると考えられる。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

すべての内容において全国、大阪市の結果を下回っているが、「情報の扱い方」と「書く」内容については、令和6年度の結果と比較すると「情報の扱い方」では1.6ポイント「書く」内容では、6.8ポイントの向上が見られた。昨年度、大阪市の取組施策のひとつである「学力向上支援チーム事業」の対象校として、国語科において、「情報の取り出しだけでは終わらない授業づくり」を研究主題として研究を進めてきた。その結果が表れていると推察される。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する」内容では、全国より30.3ポイント、大阪市とは30.5ポイントの開きが見られる。漢字学習等の基礎的な分野での習熟に課題が見られた。

〔算数〕

すべての領域において全国、大阪市の結果を下回っているが、分数の足し算の問題は、全国・大阪市より正答率が高かった。また、「変化と関係」の領域については、令和6年度の結果と比較すると1.5ポイントの向上が見られた。昨年度、大阪市の取組施策のひとつである「学力向上支援チーム事業」の対象校として、子どもたちの学習習慣や基礎学力の定着等に向け、放課後学習等の個別支援の強化を図った。その結果が表れていると推察される。しかし、記述問題については、全国より14.1ポイント、大阪市とは13.5ポイントの開きが見られ課題が残る結果となった。

〔理科〕

すべての領域において全国、大阪市の結果を下回っている。特に「地球」を柱とする領域では、全国より23.9ポイント、大阪市とは21.1ポイントの開きが見られる。問題としては、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、蒸発や結露について説明する問題の正答率が全国、大阪市の結果と比べ特に低かった。

質問調査より

いくつかの質問事項で全国、大阪市の上回る結果があった。特に「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の項目においては、100%の児童が肯定的な回答をしている。また、国語科や算数科の授業に關しての質問事項でも肯定的な回答が多かった。

一方で、理科の授業に關する質問事項では、全国、大阪市の下回る結果となっており、理科学習に対して苦手意識があることが分かった。また、タブレットなどのICT機器の活用に関する項目でも、全国、大阪市の下回る結果となっており、ICT機器の活用を推進する必要があることが分かった。

今後の取組(アクションプラン)

本校は、学力向上に向けた大阪市取組施策である「学力向上支援チーム事業」に参画している。スクールアドバイザーや学びコラボレーターと連携を取りながら、国語科を中心とし、若手教員の育成に励んでいる。

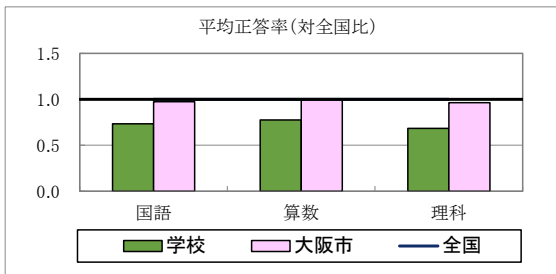
また、「ブロック化による学校支援事業」にも参画している。学習者用端末をはじめとしたICT環境を活用しながら、対面と遠隔の指導を組み合わせ、学力格差を補うための支援策に活用している。

さらに、学びサポーター制度の活用により、授業及び朝の学習における学習支援の充実を図り、学習の基礎基本の定着に向けた取り組みを行っていく。

【 全体の概要 】

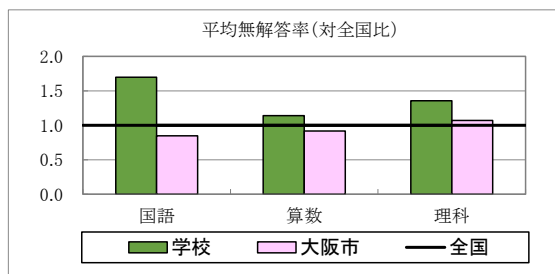
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	49	45	39
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	5.6	4.1	3.8
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



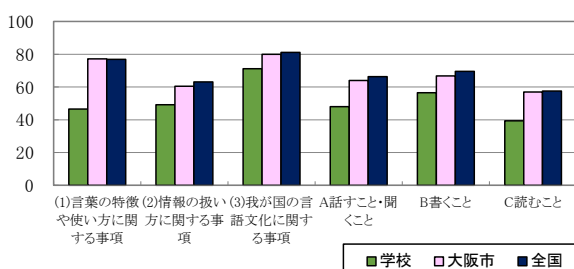
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	46.6	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	49.2	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	71.2	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	48.0	64.0	66.3
B 書くこと	3	56.5	66.7	69.5
C 読むこと	4	39.4	56.9	57.5

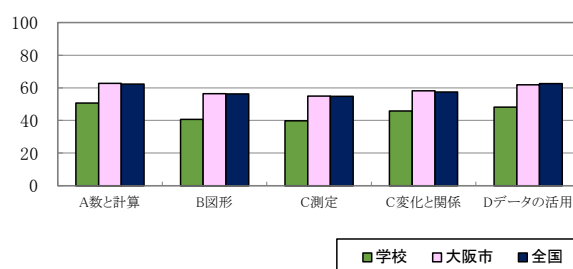
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	50.6	62.7	62.3
B 図形	4	40.7	56.4	56.2
C 測定	2	39.8	54.9	54.8
C 変化と関係	3	45.8	58.2	57.5
D データの活用	5	48.1	61.9	62.6

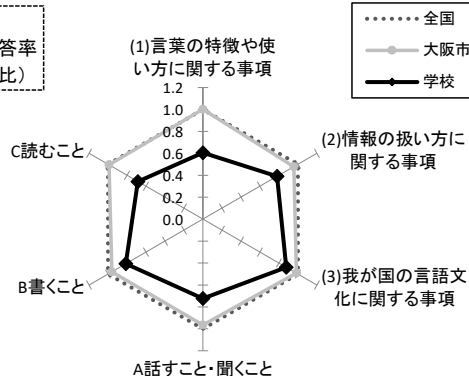
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



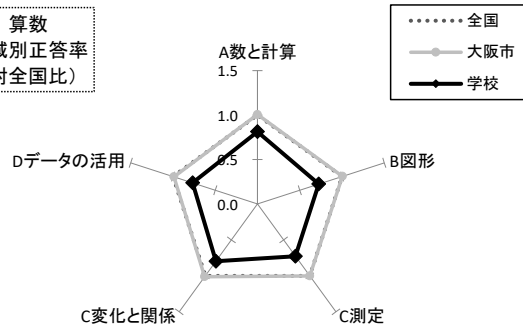
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

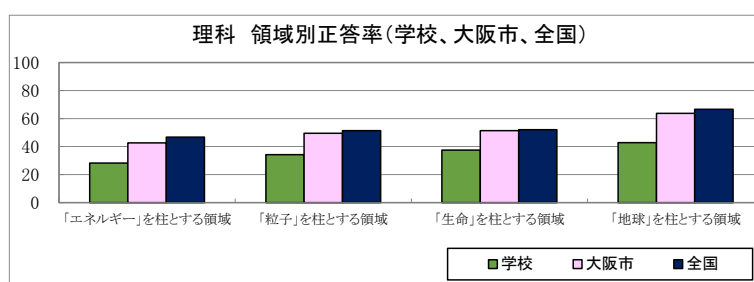


算数
領域別正答率
(対全国比)

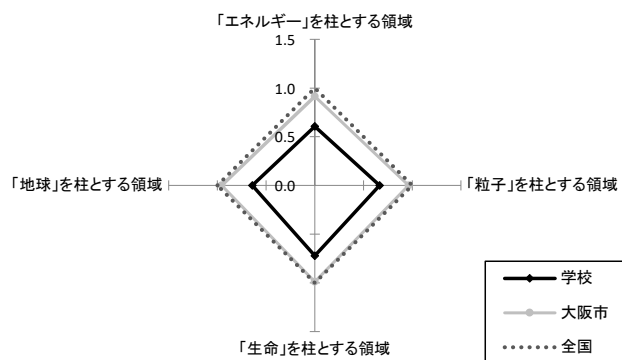


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域		対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	28.3	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	34.2	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	37.5	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	42.8	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

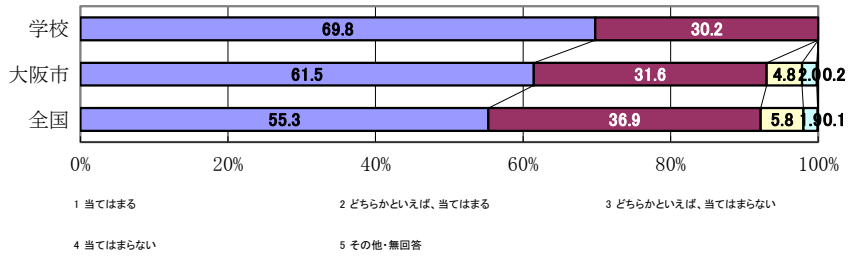
質問番号

質問事項

6

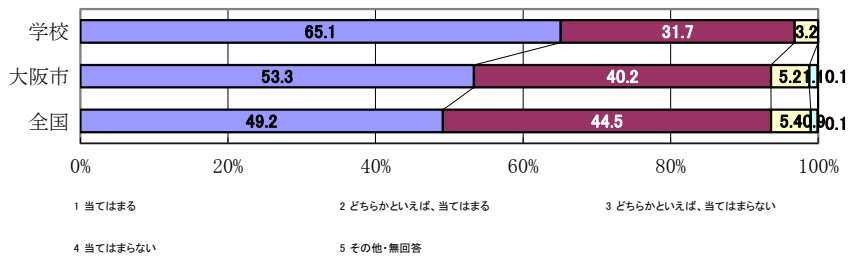
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8



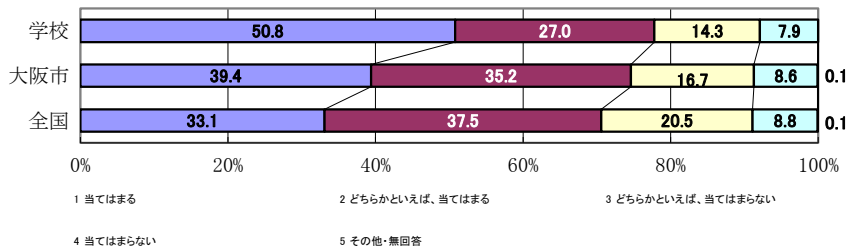
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



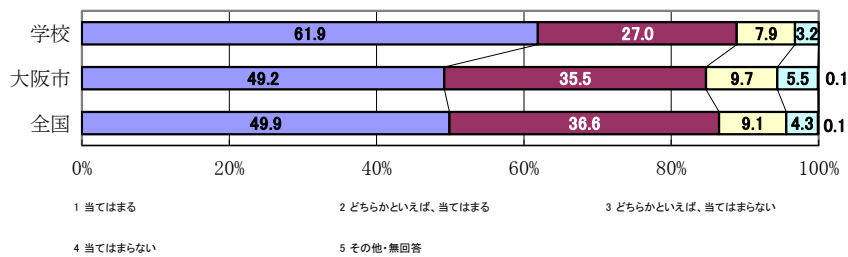
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



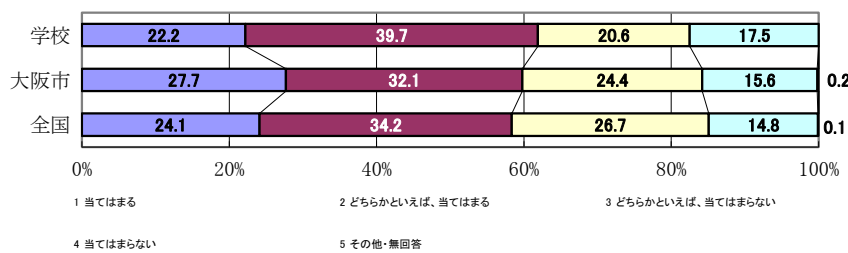
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



45

国語の勉強は好きですか



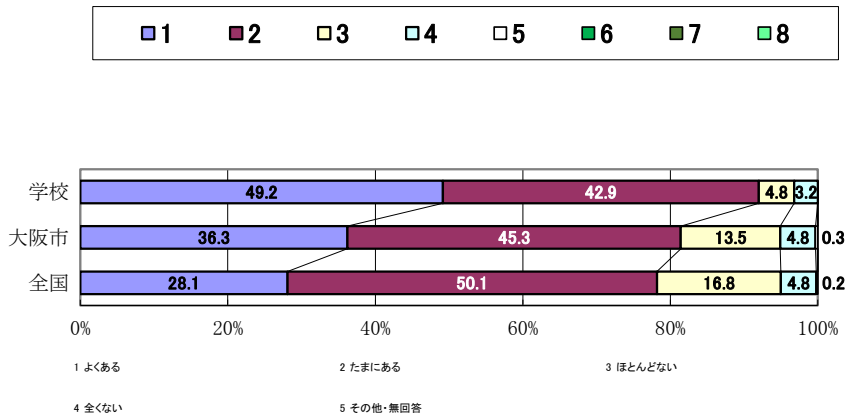
児童質問より

質問番号

質問事項

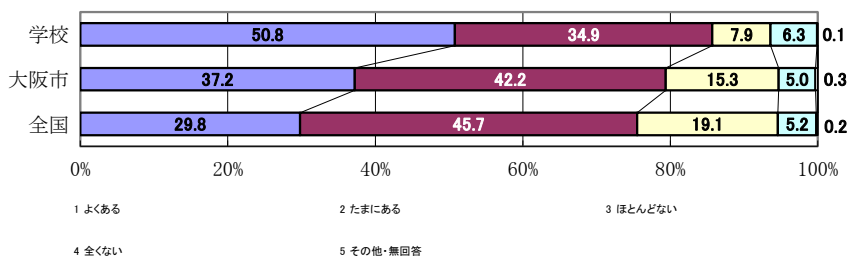
48

国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか



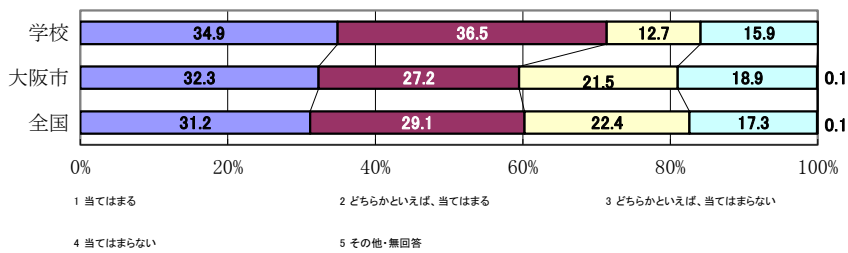
49

国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくださいませんか



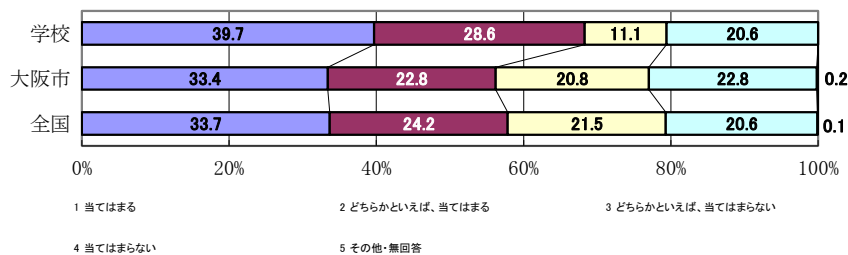
52

算数の勉強は得意ですか



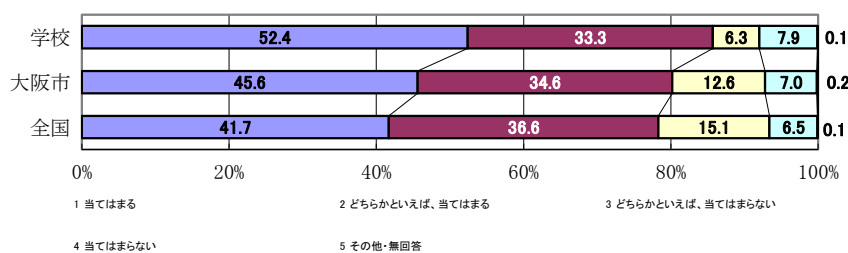
53

算数の勉強は好きですか



54

算数の授業の内容はよく分かりますか



児童質問より

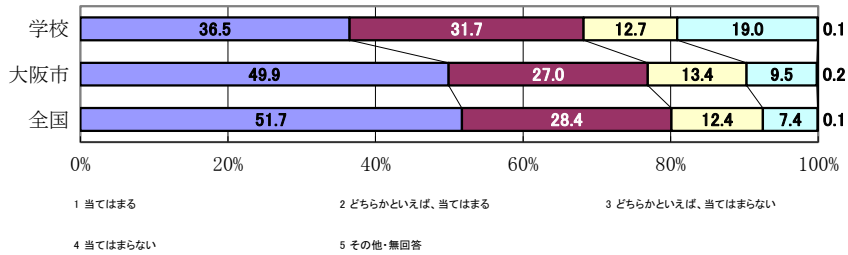
質問番号

質問事項

61

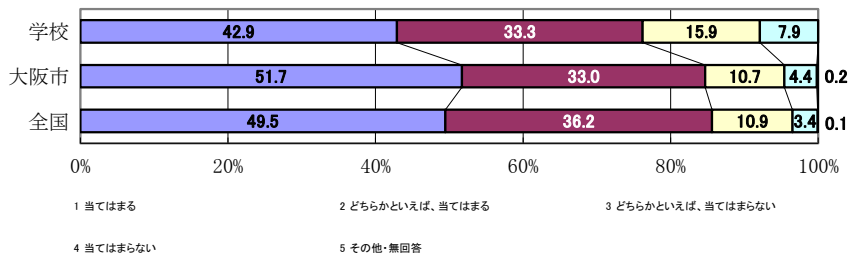
理科の勉強は好きですか

1 2 3 4 5 6 7 8



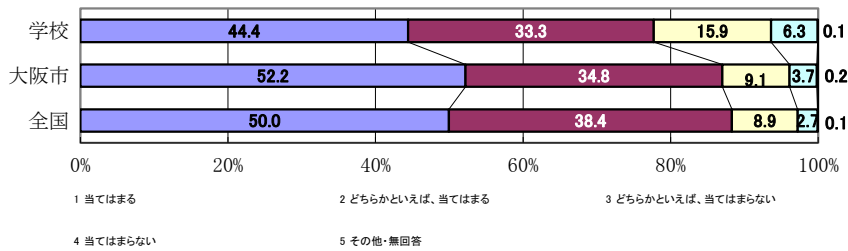
68

理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想(仮説)を考えていますか



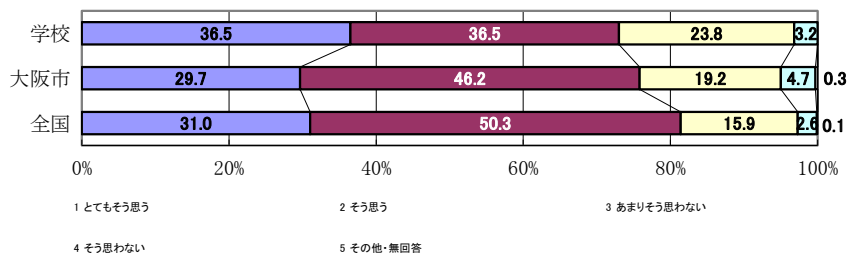
69

理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか



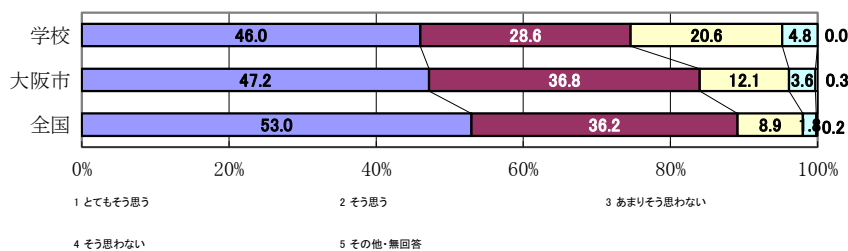
76

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(1)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



77

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(2)分からないことがあった時に、すぐ調べることができる



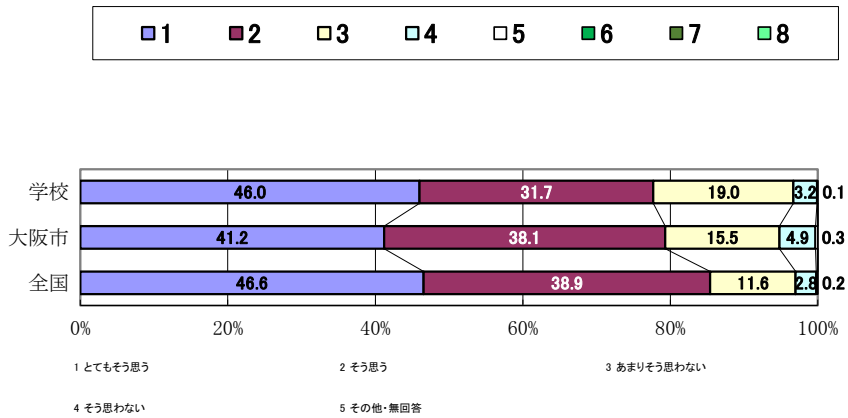
児童質問より

質問番号

質問事項

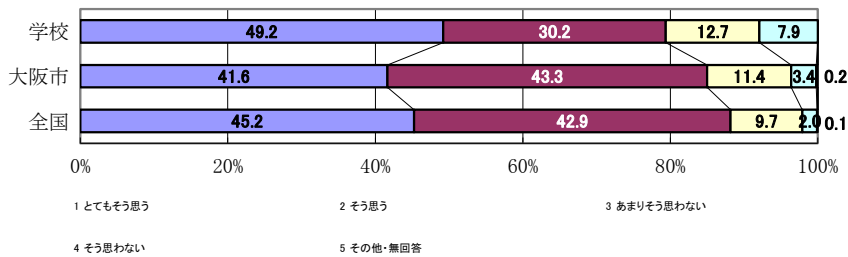
78

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(3)楽しみながら学習を進めることができる



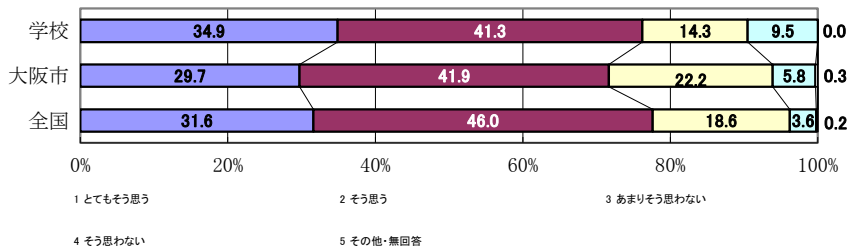
79

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(4)画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる



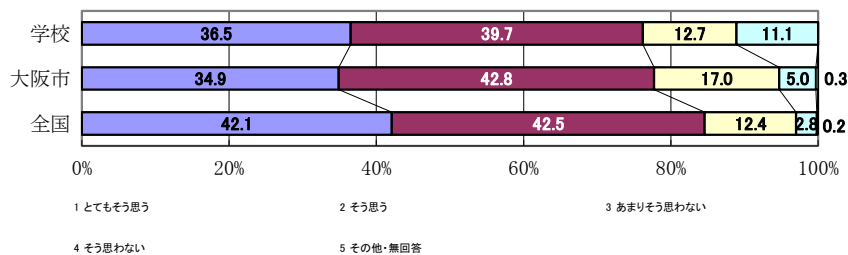
80

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(5)自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる



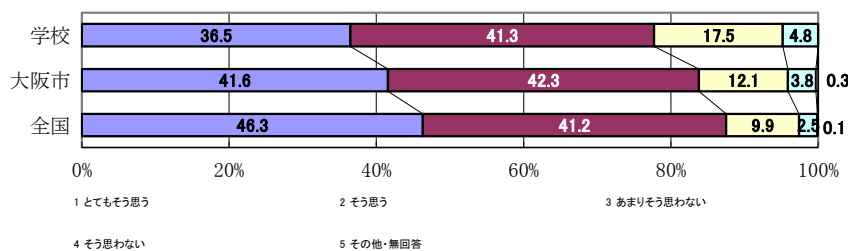
81

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(6)友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる



82

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(7)友達と協力しながら学習を進めることができる



学校質問より

質問番号

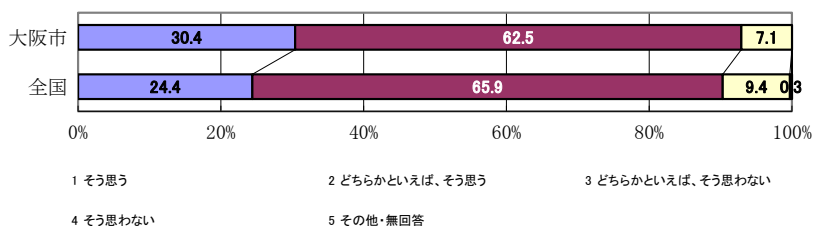
質問事項

7

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

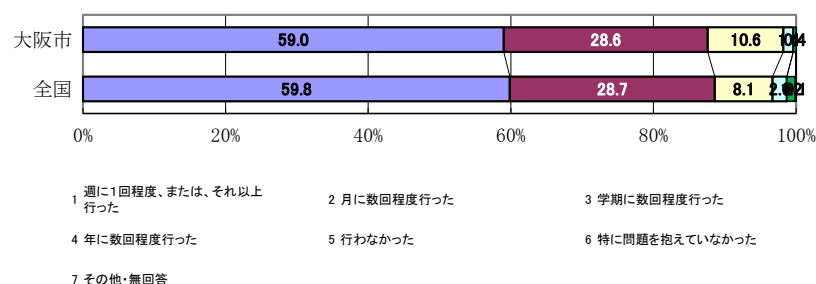
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

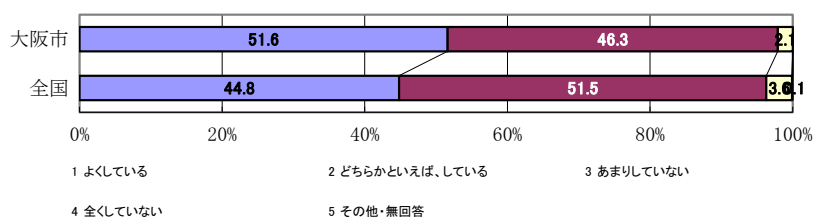
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

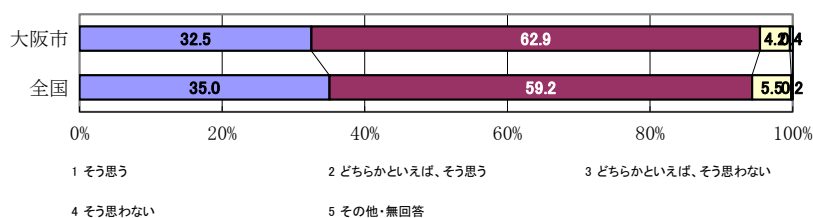
学校 「よくしている」を選択



28

調査対象学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「週3回以上」を選択

